

2018年（平成30年） 11月23日（金曜日） 毎週（金）14:00発行

発行所 (一財)日本エネルギー経済研究所  
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)  
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階  
ホームページ <https://oil-info.ieej.or.jp>

## ■ 概況

11/8~11/14のNYMEX・WTIは、55.69~60.67ドルの範囲で大きく軟化して推移した。

11月15日は、一日遅れのEIA週報で米国原油在庫は前週比1030万バレル増と市場予想(同320万バレル)を上回り8週連続で増加したが、製品在庫は取り崩され、値ごろ感による買戻しが広がり続伸した。12月限終値は前日比0.21ドル高の56.46ドルだった。

週末16日は、12月のOPEC等の合同会合における減産観測による買いが先行したが、ペーカーヒューズ社の米国内石油掘削リグ稼働数は888基(前週比2基増)と2015年3月以来の高水準となり、さらに利益確定売りが広がったことから、売り戻され、前日比横ばいだった。12月限終値は前日比横ばいの56.46ドル。

週明け19日は、供給過剰感が漂う中、減産に難色を示していたロシアのノバク・エネルギー相が足並みをそろえる方向を示したこと、フランス政府がパリ郊外で開催されたイラン反体制派集会へのテロ計画についてイラン政府の関与を示唆したことから、上伸した。この日納会日の12月限終値は前週末比0.30ドル高の56.76ドル。

20日は、米国の株安の影響、また、記者殺害疑惑に関しトランプ大統領がサウジとの友好関係を優先する意向を示したことから、大幅下落した。中心限月に繰り上がった1月限終値は前日比3.77ドル安の53.43ドル。

21日は、EIA米国在庫週報で、原油は9週連続の積み増しになったが、製品在庫は取り崩されたこと、記者殺害疑惑に係わる米国との関係でサウジによる次回OPEC総会での大幅減産はないとの観測から、反発した。1月限終値は前日比

1.20ドル高の54.63ドル。

アジアの指標原油である中東産バイ原油/東京市場(1月渡し)は、前週64.20~70.90ドルの範囲で推移した。11月15日65.30ドル、16日66.10ドル、19日66.20ドル、20日65.30ドル、21日62.30ドルで推移した。

為替は、前週113.63~114.03円の範囲でやや円安で推移した。11月15日113.67円、16日113.65円、19日112.73円、20日112.67円、21日112.91ドルで推移した。

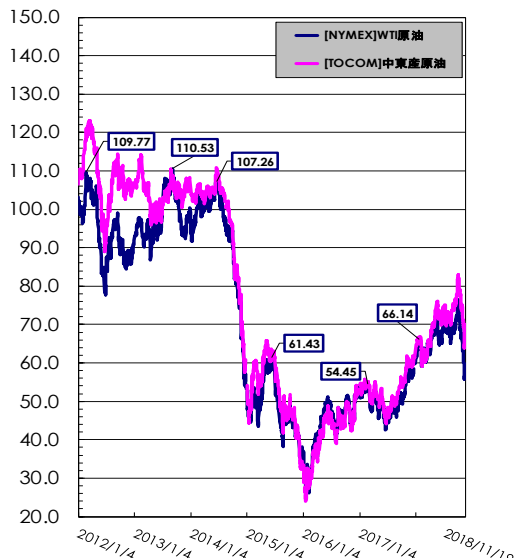
財務省が19日発表した貿易統計(速報・旬間)によると、10月下旬の原油輸入平均CIF価格は56,289円/klで、前旬比1,045円安、ドル建てでは79.59ドルで前旬比0.57ドル安。為替レートは1ドル/112.45円だった。また、同日発表の貿易統計(速報・月間)によると、9月の原油輸入平均CIF価格は56,222円/klで、前月比3,086円高、ドル建てでは79.17ドルで前月比3.15ドル高。為替レートは1ドル/112.90円だった。

主要元売会社の11月第3週に適用する卸価格は、ガソリンは1.0~3.0円の値下げ、軽油と灯油は1.0~2.0円の値下げに分かれた。原油価格は大きく値下がりし、為替レートの円安がこれを一部相殺したが、原油調達コストは大きく値下がりととなった。

そのような中で、11月19日時点の小売価格は、ガソリンが前週比1.6円の値下がり、軽油も同1.2円の値下がり、灯油も同14円の値下がり(18%ベース)だった。ガソリン、軽油、灯油ともに、4週連続の値下がりだった。この週(11月第2週)の原油コストは大きく値下がりし、元売の卸価格はガソリンが全社1.5円の値下げ、軽油・灯油は1.0~1.5円の値下げに分かれた。

原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	11/11 ~ 11/17	3,627 ▲ 182	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	92.6 ▲ 4.6	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	11/17	12,271 ▼ -850	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	11/19	65.87 ▼ -4.23	▲ 5.5
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	11/19	56.76 ▼ -3.17	▲ 0.7
	原油CIF単価 (\$/bbl)	10月下旬	79.59 ▼ -0.57	▲ 24.78
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	56,289 ▼ -1,045	▲ 17,541
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	112.45 ▲ 1.26	▼ -0.05
	外国為替TTSレート (¥/\$)	11/19	113.73 ▲ 1.21	▼ -0.54

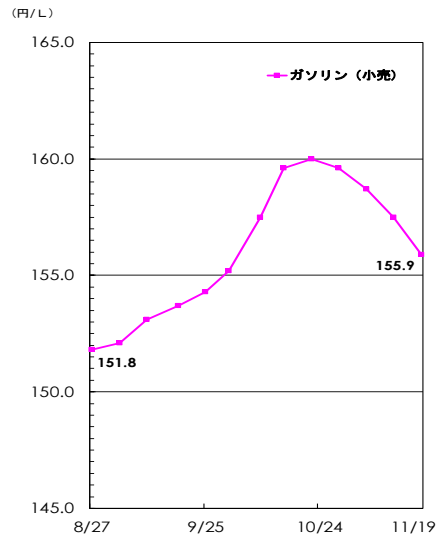
(\$/b)



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	11/11 ~ 11/17	983 ▲ 8	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	933 ▲ 59	▼ -	
	輸出	"	9 ▼ -23	▼ -	
	在庫	11/17	1,829 ▲ 41	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	11/13 ~ 11/19	64.8 ▼ -1.9	▲ 5.0	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	11/13 ~ 11/19	57.2 ▼ -5.0	▼ -1.3
		(TOCOM/中部)	11/19	59.8 ▼ -3.1	▼ -0.2
	小売 [週動向] (資工庁公表)	11/19	155.9 ▼ -1.6	▲ 15.8	

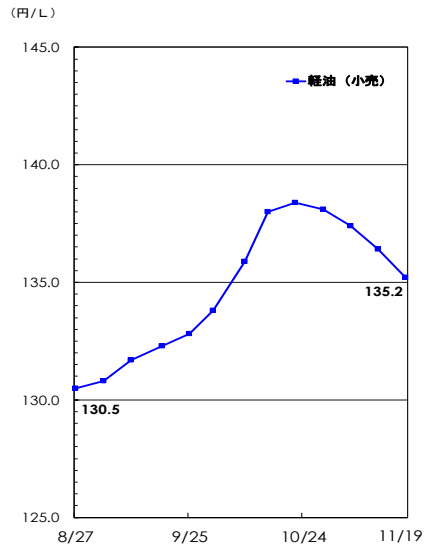
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

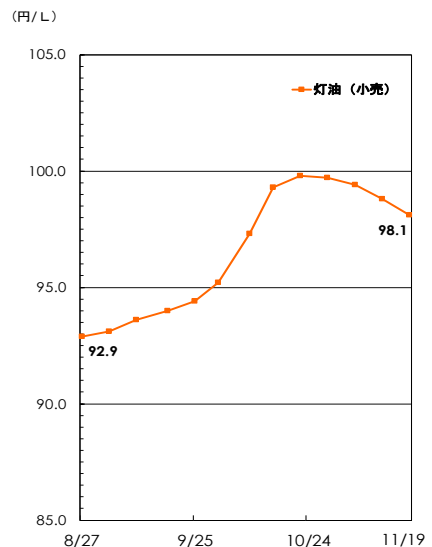
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	11/11 ~ 11/17	836 ▲ 107	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	654 ▼ -13	▲ -	
	輸出	"	93 ▲ 59	▼ -	
	在庫	11/17	1,572 ▲ 89	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	11/13 ~ 11/19	68.9 ▼ -1.0	▲ 9.6	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	11/13 ~ 11/19	68.6 ▼ -2.6	▲ 13.6
		(TOCOM/中部)	11/19	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	11/19	135.2 ▼ -1.2	▲ 17.1	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	11/11 ~ 11/17	253 ▼ -95	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	201 ▼ -6	▲ -	
	輸出	"	0 ▼ -50	▶ -	
	在庫	11/17	2,857 ▲ 52	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	11/13 ~ 11/19	67.6 ▼ -1.3	▲ 6.7	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	11/13 ~ 11/19	64.2 ▼ -3.2	▲ 4.9
		(TOCOM/中部)	11/19	65.2 ▼ -3.3	▲ 4.2
	小売 [週動向] (資工庁公表)	11/19	98.1 ▼ -0.7	▲ 15.7	



■ 関連情報

1 海外/原油

11月21日のNYMEX市場WTI原油は、米国エネルギー情報局(EIA)週報で、米国の原油在庫は前週比490万バレル増と市場予想(同290万バレル)を上回り9週連続の積み増しとなったが、製品在庫はガソリンが同130万バレル減と2017年12月以来の低水準となったこと、さらに、ジュンスケープ社発表の原油先物受渡点であるクッシングの原油在庫が同11.6万バレル減と9週ぶりに減少したことから反発した。また、トランプ大統領の記者殺害疑惑よりサウジとの友好関係を優先するとの姿勢から、サウジは、次回OPEC総会で大幅な減産には踏み切れないとする観測も支援材料と

なった。1月限終値は前日比1.20ドル高の54.63ドル、2月限の終値は前日比1.23ドル高の54.80ドルだった。

EIAによると、11月19日時点のガソリンの小売価格は、前週比7.5セント値下がりの1ガロン2.611ドル(78.4円/ℓ)、ディーゼルは前週比3.5セント値下がりの3.282ドル(98.5円/ℓ)となった。ガソリンは6週連続の値下がり、ディーゼルは5週連続の値下がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、平成30年11月11日～11月17日に休止したトッパー能力は13.3万バレル/日で、前週に対して8.0万バレル/日減少した(全処理能力は351.9万バレル/日)。

原油処理量は362.7万klと、前週に比べ18.2万kl増加。前年に対しては1.0万klの減少。トッパー稼働率は92.6%と前週に対して4.6ポイントの増加、前年に対しては0.3ポイントの減少となった。

生産は前週に比べて灯油、A重油が減産となり、その他の油種で増産となった。ガソリン/0.8%増、ジェット/129.2%増、灯油/27.4%減、軽油/14.7%増、A重油/0.1%減、C重油/36.1%増。今週のC重油の輸入は5.0万kl(前週比0.9万kl増)。軽油の輸出は9.3万kl(前週比5.9万kl増)。

出荷(輸入分を除く)は、前週比ではガソリン、ジェットが増加となり、その他の油種で減少となった。前年比ではガソリン、A重油、C重油で減少となり、その他の油種で増加となった。ガソリンの出荷は93.3万 kl(対前週6.7%増)と前週比で2週連続で増加となり、11週連続で100万klを下回った。ジェット8.0万kl(対前週253.6%増)、灯油20.1万kl(対前

週2.9%減)、軽油65.4万kl(対前週2.0%減)、A重油19.3万kl(対前週4.8%減)、C重油13.6万kl(対前週28.4%減)。

(単位:千kl)

	今週 (11/11 ~ 11/17)	前週 (11/4 ~ 11/10)	前週比	
ガソリン	933	874	▲ 59	(7%)
ジェット燃料	80	23	▲ 57	(248%)
灯油	201	207	▼ -6	(-3%)
軽油	654	667	▼ -13	(-2%)
A重油	193	203	▼ -10	(-5%)
C重油	136	190	▼ -54	(-28%)
合計	2,197	2,164	▲ 33	(2%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

11月17日時点の在庫は、全ての油種で積み増しとなった。前年に対してはジェットが取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。

ガソリンは182.9万kl、前週差4.1万kl増。前年に対しては13.0万kl多い。

灯油は285.7万kl、前週差5.2万kl増。前年に対しては19.5万kl多い。

軽油は157.2万kl、前週差8.9万kl増。前年に対しては18.3万kl多い。

A重油は85.7万kl、前週差5.8万kl増。前年に対しては18.5万kl多い。

C重油は207.9万kl、前週差7.8万kl増。前年に対しては9.8万kl多い。

(単位:千kl)

	今週 (11/17)	前週 (11/10)	前週比	
ガソリン	1,829	1,788	▲ 41	(2%)
ジェット燃料	990	897	▲ 93	(10%)
灯油	2,857	2,805	▲ 52	(2%)
軽油	1,572	1,483	▲ 89	(6%)
A重油	857	799	▲ 58	(7%)
C重油	2,079	2,001	▲ 78	(4%)
合計	10,184	9,773	▲ 411	(4.2%)

### 3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

11月13日から11月19日の原油価格は、引き続き、前週対比で大きく値下がりし、為替レートはほぼ横ばいで、原油コストは大きく値下がりしたものと見られる。

陸上スポット価格は、同期間、ガソリン118～120円台で大きく値下がり、軽油68～69円台で値下がり、灯油67～68円台で値下がりして推移した。

海上スポット価格は、同期間、ガソリン119～122円台で大きく値下がり、軽油69～70円台で大きく値下がり後

ずかに上昇、灯油62～65円台で大きく出入り後値下がりして推移した。

先物価格は、同期間で、ガソリン110～114円台で大きく値下がり、軽油68～69円台で大きく値下がり、灯油63～66円台で大きく値下がり後やや上昇して推移した。

元売の卸価格は、ガソリンは3.0～4.5円の値下げ、軽油は全社3.0円の値下げ、灯油は3.0～3.5円の値下げに分かれた。

### 3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

製品スポット市況は、前週に続き、全油種・全取引で大きく値下がりした。

11月第4週(11月22日～11月28日)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(11月13日～11月19日千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは1.9円の値下がり、灯油も1.3円の値下がり、軽油も1.0円の値下りだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが4.0円の値下がり、灯油も3.1円の値下がり、軽油は2.7円の値下がりだった。

先物価格は、ガソリンが5.0円の値下がり、灯油も3.2円の値下がり、軽油も2.6円の値下がりだった。

原油価格は大きく値下がりし、為替はほぼ横ばいで、原油コストは大きく値下がりした。

11月第4週の大手元売の卸価格は、ガソリンは3.0～4.5円の値下げ、軽油は全社3.0円の値下げ、灯油は3.0～3.5円の値下げに分かれた。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM) (単位: 円/%)

[陸上ローリー4地区平均]	今週 (11/13 ~ 11/19)	前週 (11/6 ~ 11/12)	前週比
レギュラー	64.8	66.7	▼ -1.9
灯油	67.6	68.9	▼ -1.3
軽油	68.9	69.9	▼ -1.0

(TOCOM) (単位: 円/%)

[期近物/終値][平均]	今週 (11/13 ~ 11/19)	前週 (11/6 ~ 11/12)	前週比
レギュラー	57.2	62.2	▼ -5.0
灯油	64.2	67.4	▼ -3.2
軽油	68.6	71.2	▼ -2.6

※上記価格は税抜き価格

参考値 (11/13～11/19実績値) (単位: 円/%)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▼ -1.9	▼ -5.0	▼ -3.5
灯油	▼ -1.3	▼ -3.2	▼ -2.3
軽油	▼ -1.0	▼ -2.6	▼ -1.8
A重油	▼ -1.0		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

### 4 国内/製品小売価格

11月19日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比1.6円安の155.9円、軽油も同1.2円安の135.2円、灯油は同0.7円安の98.1円(18%ベースでは14円安の1,765円)だった。ガソリンは4週連続の値下がり、軽油も4週連続の値下がり、灯油も4週連続の値下がりだった。都道府県別に、ガソリンの値上がりはなし、横ばいは2県で、値下がり45都道府県だった。全国最安値は愛知県の150.7円(前週比1.8円安)、次が151.5円の埼玉県(同1.7円安)と石川県(同2.2円安)、最高値は長崎県の167.6円(同0.6円安)であった。値上がりした

県はなく、横ばいは高知県・香川県、最も値下がりしたのは3.6円安の島根県(155.1円)だった。

先週の原油コストは大きく値下がりし、元売の卸価格は、ガソリンは3.0～4.5円の値下げ、軽油は全社3.0円の値下げ、灯油は3.0～3.5円の値下げに分かれた。今週は、原油価格が大きく値下がりし、為替レートはほぼ横ばいで、原油コストは大きく値下がりした。次週(11月26日)のガソリン・灯油の小売価格は、値下がり予想される。

(単位: 円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (11/19)	前週 (11/12)	前週比	直近高値
レギュラー	155.9	157.5	▼ -1.6	08/8/4 185.1
灯油	98.1	98.8	▼ -0.7	08/8/11 132.1
軽油	135.2	136.4	▼ -1.2	08/8/4 167.4

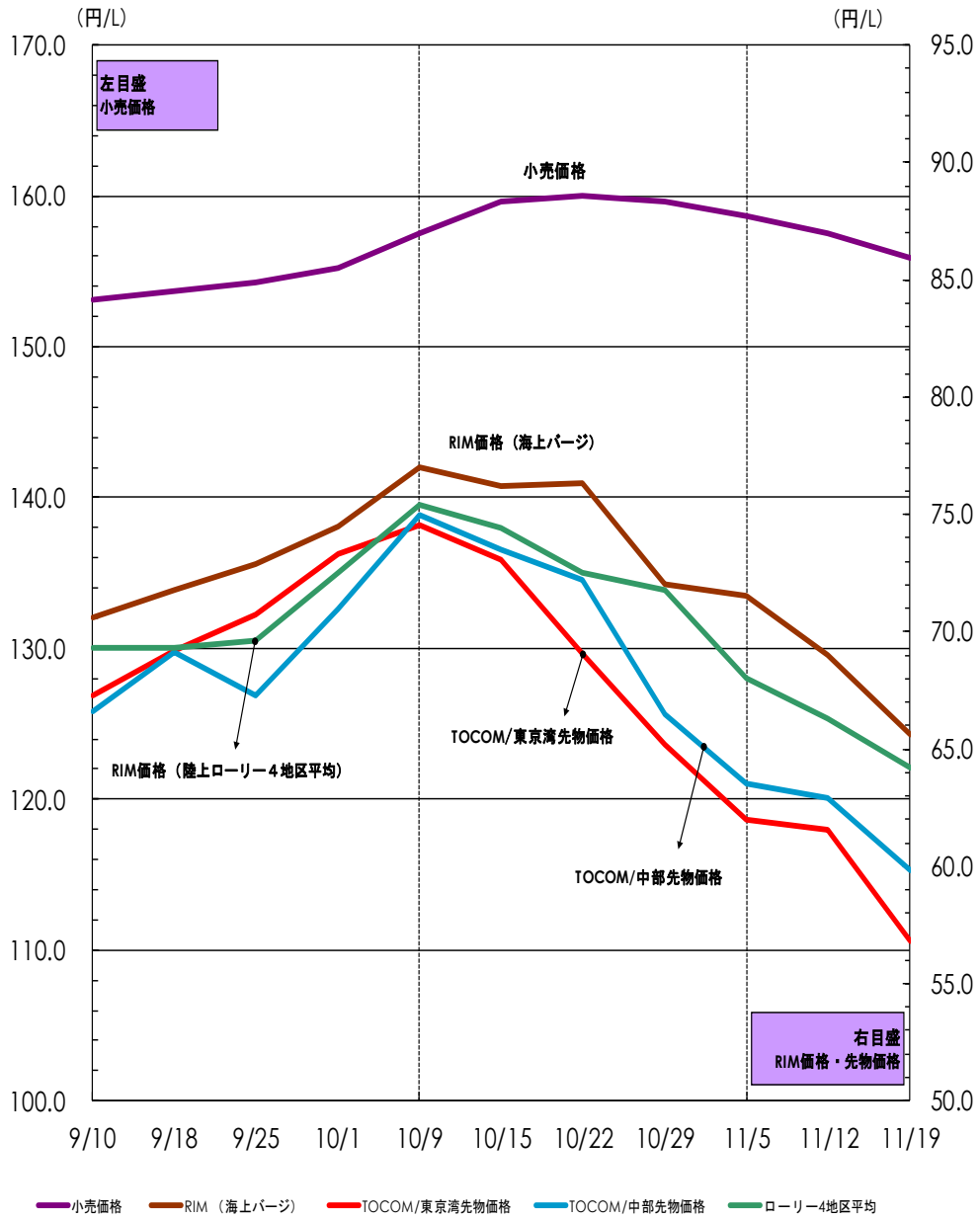
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

# ガソリン価格推移

(2018/9/10 ~ 2018/11/19)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格  
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

## ■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。  
次回(2018第33号)の公表は、11/30(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成30年3月末現在)は、7月31日(火)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

### 本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

### 「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

### 本レポート掲載データの出所について

#### ①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

#### ②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

#### ③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

#### ④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

#### ⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

#### ⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。